

令和3年度事後評価対象事業の事前整理に関する事前質問・回答

No.	質問者	整理番号	事業名	地区名等	頁	質問項目	質問・回答	担当課
1	樺委員	R3-3	港湾改修事業 (港整備交付金 事業)	尻屋岬港第2ふ 頭地区(東通 村)	1	「アンケート調査票」の問 番号について	別紙のとおり	港湾空港課
2	南委員	R3-1	ため池等整備事 業(ため池整 備)	手代森(弘前 市)	2	「事業効果の発現状況の捉 え方について」の「事業目 的の達成状況」について	別紙のとおり	農村整備課
3	〃	〃	〃	〃	2	「アンケート調査票」の 「事業実施前の状況」につ いて	別紙のとおり	〃
4	〃	R3-2	海岸保全施設整 備事業(高潮対 策事業)	大畑漁港(むつ 市)	4	「事業効果の発現状況の捉 え方について」の「事業目 的の達成状況」について	別紙のとおり	漁港漁場整 備課
5	〃	R3-3	港湾改修事業 (港整備交付金 事業)	尻屋岬港第2ふ 頭地区(東通 村)	5	「選定候補調書」の「想定 した事業効果」について	別紙のとおり	港湾空港課
6	森(洋)委員	R3-1	ため池等整備事 業(ため池整 備)	手代森(弘前 市)	6	ため池堤体の所定の安全率 について	別紙のとおり	農村整備課
7	〃	R3-2	海岸保全施設整 備事業(高潮対 策事業)	大畑漁港(むつ 市)	7	ワークショップでの住民か らの要望内容及び設計への 反映状況について	別紙のとおり	漁港漁場整 備課
8	〃	〃	〃	〃	7	人工リーフによる漂砂抑制 の影響について	別紙のとおり	〃

令和3年度事後評価対象事業の事前整理に関する質問事項

質問者	__ 樺 __ 委員		
番 号	R3-3	事 業 名	港湾改修事業（港整備交付金事業）
地区名等	尻屋岬港 第2ふ頭地区（東通村）		
<p>(質問等)</p> <p>資料3-4「アンケート調査票」の問8-2の達成度の質問は、問9とした方が良いのではないか。（他ではそうなっている）</p>			
<p>(回答：港湾空港課)</p> <p>問番号を「問8-2」から「問9」に修正します。</p>			

令和3年度事後評価対象事業の事前整理に関する質問事項

質問者	南 委員		
番号	R3-1	事業名	ため池等整備事業（ため池整備）
地区名等	手代森（弘前市）		
<p>（質問等）</p> <p>○資料1-2「事業効果の発現状況の捉え方について」の右下【事業目的の達成状況】 問1 2つ目の・で「取水（貯水位の調整）がしやすくなった」について、水位の調整は「自動（自然）」なのか、それとも「手動」なのか。</p> <p>○資料1-4「アンケート調査票」のP4【事業実施前の状況】 問2 右下の「取水施設」の説明の中で、「蓋の開閉がしづらい」と記載されているが、 第一に、「蓋」とはどの部分の事か。 第二に、どのように「開閉」していたのか。</p>			
<p>（回答：農村整備課）</p> <p>○資料1-2について 答1 整備後の水位調整は、手動（ハンドル操作）です。（別紙の参考写真のとおり）</p> <p>○資料1-4について 答2 第一 蓋とは、旧取水施設において、取水量を調整するための溝状の穴を塞ぐ板状の蓋（木製）のことです。（別紙の参考写真のとおり） 第二 溝状の取水口に管理者が直接蓋を設置または撤去することで取水量を調整しています。 （別紙の参考写真のとおり）</p>			

【別紙】

○資料1-2 答1の参考写真

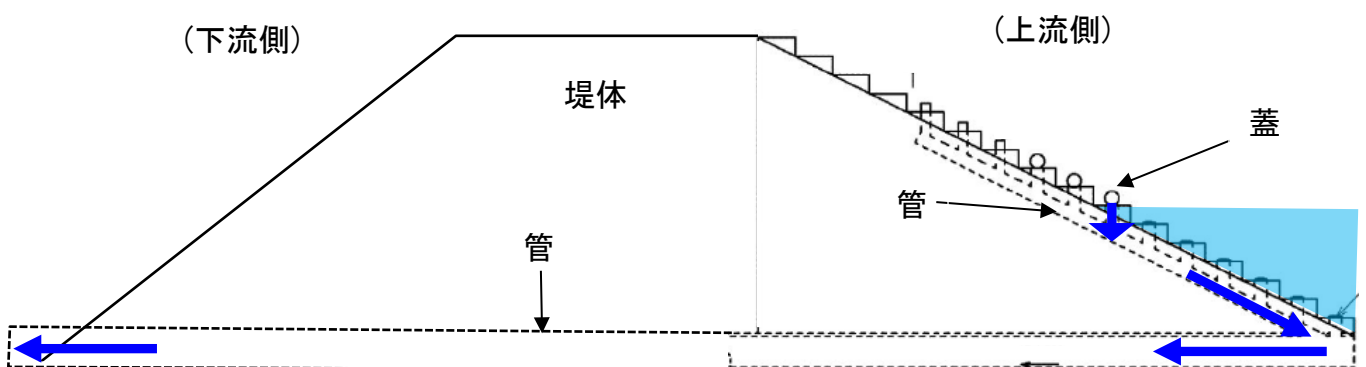


○資料1-4 答2の参考写真

(他のため池のイメージ写真)



複数箇所ある蓋のうち、水面の暖かい水を取水できるよう上から順に開く仕組み。



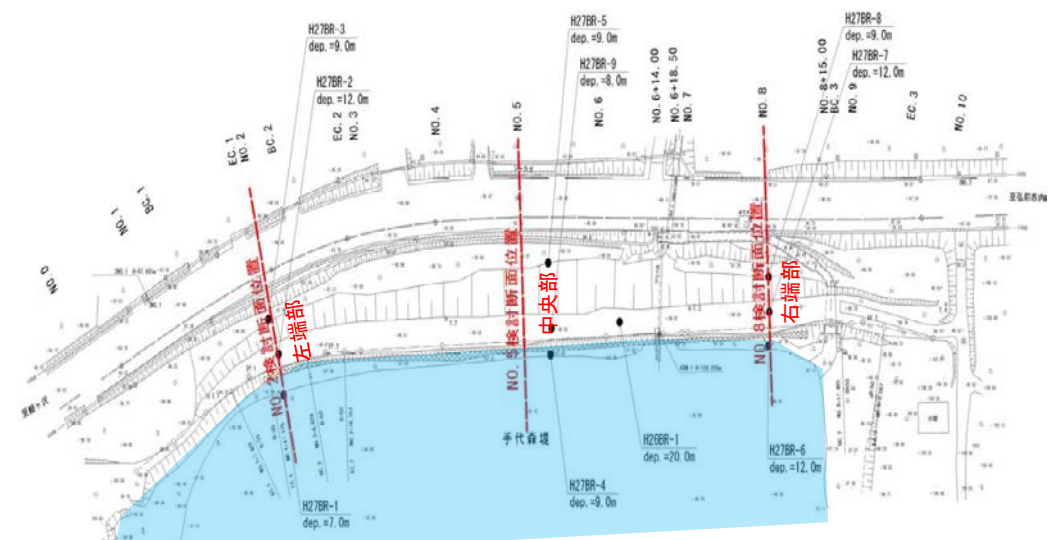
令和3年度事後評価対象事業の事前整理に関する質問事項

質問者	南 委員			
番号	R3-2	事業名	海岸保全施設整備事業（高潮対策事業）	
地区名等	大畑漁港（むつ市）			
(質問等)				
○資料2-2「事業効果の発現状況の捉え方について」右下【事業目的の達成状況】関係				
<p>資料2-4「アンケート調査票」のP6「事業実施前（例えばH19）」と「完成後（例えばH28～R2）」の年間最大波クラスの波浪諸元（最大波あるいは有義波）の観測データはあるか。</p> <p>事業実施前後で、同じクラスの波浪が発生していると、数値でも効果を評価しやすいと思うがいかがか。</p>				
(回答：漁港漁場整備課)				
<p>大畑沖での波高観測データはありませんが、本海岸に最も影響のある波向きがE又はENEであることを踏まえ、国土交通省港湾局のナウファス(全国港湾海洋波浪情報網)から、太平洋沿岸に位置し、かつ波高と波向きを観測している八戸港の観測データを確認しました。</p> <p>この結果、事業実施前越波状況写真の撮影年月日であるH19年11月12日には、有義波E：6.90m、最大波E：10.48mが観測されております。また、事業実施後のH28及びH29には、H19を越える波高が観測されています。</p> <p>このことから、事業実施後にH19と同じクラスの波浪が来襲している可能性が高いものの、浸水被害が確認されていないため、本事業の人工リーフによる効果が発現していると考えられます。</p>				
【ナウファスの波高観測データ（八戸港年最大値）】				
(単位：m)				
	事業実施前	事業実施後		
年	H19	H28	H29	H30
有義波	E 6.90m	E 8.97m	ENE 7.20m	E 4.14m
最大波	E 10.48m	E 12.22m	ENE 10.95m	ENE 7.38m
		<p>■：ナウファス観測地</p> <p>※ 八戸港よりも大畑海岸に近い観測地であるむつ小川原港及び青森東岸沖では、波向きを観測していないことから、八戸港の観測データを確認しました。</p>		

令和3年度事後評価対象事業の事前整理に関する質問事項

質問者	南 委員		
番号	R3-3	事業名	港湾改修事業（港整備交付金事業）
地区名等	尻屋岬港 第2ふ頭地区（東通村）		
（質問等） ○資料3-1「選定候補調書」の「想定した事業効果」関係 問1 《その他の効果》「静穏度向上による港湾利用者が負担する滞船料の軽減」とは、「静穏度が上がった事で荷役時間が短縮され、結果として、滞船時間が短くなった」と理解してよいか。 問2 防波堤設置前後のそれぞれの「静穏度」は何%か。			
（回答：港湾空港課） 問1 について 委員の御推察のとおり、静穏度向上に伴い荷役時間が短縮されるなどによる効果として、用船者（荷主）が船主に支払う滞船料が軽減されるものです。 問2 について 防波堤（東）L=200m及び、防波堤（西）L=220m設置前の静穏度は64%、防波堤設置後の静穏度は79.5%とそれぞれ算定されます。			

令和3年度事後評価対象事業の事前整理に関する質問事項

質問者	森（洋） 委員					
番号	R3-1	事業名	ため池等整備事業（ため池整備）			
地区名等	手代森（弘前市）					
(質問等) 常時又は地震時（レベル1地震時相当）でのため池堤体の所定の安全率が、改修後、どれだけ向上したかを教えて欲しい。						
(回答：農村整備課) 改修前のため池堤体の両端部及び中央部の計3か所で安定計算を行った結果、常時は3か所とも安全率1.20を満足しましたが、地震時は中央部及び貯水面を背にして右端部の安全率が1.20を下回ることが確認されました。 このため、上流法面及び基礎部を改良する工法（採用した工法）で再度安定計算を行った結果、以下のとおり安全率が向上しました。 なお、常時の3か所及び地震時の左端部は、改修前の時点で安全率1.20を満足していたことから、改修後の計算はしていません。						
条 件	常 時 (設計洪水位)			地震時 (常時満水位)		
位 置	左端部	中央部	右端部	左端部	中央部	右端部
改 修 前	2.12	1.94	2.11	1.27	1.07	1.15
改 修 後	—	—	—	—	1.32	1.46
安全率の増	—	—	—	—	+0.25	+0.31
 <p>The diagram shows a cross-section of a dam with various sections labeled H27BR-1 through H27BR-9. It includes elevation markers (e.g., dep. = 9.0m, dep. = 12.0m) and safety factor values for different parts. Red vertical lines indicate the '左端部' (left end), '中央部' (center), and '右端部' (right end) sections. The drawing also shows the water level and the dam's profile.</p>						

令和3年度事後評価対象事業の事前整理に関する質問事項

質問者	森（洋） 委員		
番号	R3-2	事業名	海岸保全施設整備事業（高潮対策事業）
地区名等	大畑漁港（むつ市）		
（質問等）			
<p>○アンケート調査票について</p> <p>1. ワークショップにより人工リーフの波消しブロックを出来るだけ水面上に出さないようにするなどの形を検討したとの記述があるが、住民からはどのような理由でそのような要望があったのか。また、その他にもどのような要望があり、どの程度、設計に反映したのか。</p> <p>2. 質問項目にもあるが、人工リーフによる汀線を前進させる漂砂抑制の影響を、どの程度確認しているのか。</p>			
（回答：漁港漁場整備課）			
<p>1 住民からは、景観を悪化する懸念があるため、波消しブロックを出来るだけ水面上から出さないようにしてほしいという意見と、守られていると安心するため、波消しブロックを水面上から見えるようにしてほしいという意見がありました。</p> <p>また、漁業者からは、沖側が漁場となっているため、波消しブロックの反射波を極力抑えてほしいという意見がありました。</p> <p>このことから、県は、3つの意見の折衷案として、満潮時にはほぼ見えず干潮時には見える離岸堤と、その前面に人工リーフを設置することで、波高を減衰させ反射波も抑えることとしたものです。</p> <p>2 人工リーフは、高波を低減させる目的で設置したのですが、一般的には、砂浜に人工リーフを設置した場合、背後に砂が堆積し、汀線は前進します。</p> <p>現地においても、人工リーフの設置前より10m程度の汀線の前進を確認しています。</p>			